



上演にあたって

関西芸術座は、創立から五四年経ちました。

創立以来、青少年対象の作品を数多く上演してきました。

近年、子どもたちを取り巻く環境はめまぐるしく変わってきています。学校は仲間がいる楽しい場所だったはずが、イジメ・不登校という言葉が当たり前のように使われだしたのは、いつからでしょう。子どもたちは、点数の良し悪しに一喜一憂し、学歴・競争社会に放り出されていきます。そして、学校を卒業しても働く場所がないという現実が突きつけられます。

「楽園のつくりかた」では、偏差値ばかりを気にして塾通いに精を出すエリート中学生が、田舎に転校したことをきっかけに仲間の大切さに気づき、本来の楽しい思春期に目覚めていきます。親友という存在に出会える喜び。仲間と呼べるクラスメイト。何事も自ら切り開いていくことの大切さを、身をもって体験します。子どもたちだけでなく、諦めない、挑戦するエネルギーはいくつになっても持ち続けたいものです。

芝居を観て元気になれる。そんな作品をお届けします。

スタッフ

原作 笹生 陽子 (角川文庫)
脚色 勇来 佳加
演出 松本 昇三
装置 野崎 みどり
照明 池内 得裕
音響 廣瀬 義昭
振付 香奈 メイコ
小道具 川上 律美
衣裳 勇来 佳加
舞台監督 坂本 真貴乃
制作 榎木 年子

パンフレット 発行／榎木年子 編集／恒川愛子

2011年9月5日発行

このところ、いろんな所で、お芝居の演出や指導をすることがありますので、多くの問題を抱えた子どもたちと接する機会があります。

それは、親のことであったり、対人関係であったり、学校のことであったりと。最近、女の子の恰好で学校にも行くし普通にスカートをはいてすごしているという男の子に出会いました。その事は何も問題ではないのですが、すっかり中年の私には、時代はかわったなあと思えてしまいます。

この物語にも、山村留学生として都会から来ているそういった子が登場します。彼(？)彼女(？)曰く「あたしみたいに打たれ強くてさっぱりしたオカマはいない」そうですが、きつと打たれ強くさせる何かがあったのでしょうか。

みんながそれぞれがいろんなものを抱えているのですが、わたしが出会った子どもたちは演劇をしようという人たちですから、物事を前向きにとらえようとする力があります。

生きていくには、自分の思いどおりにならないことや、突然に考えてもいないことが起きる事もあります。人間関係にしても、決して自分に好ましい人物が集まってくるとは限らない。嫌なことも起きるし、将来が不安になることもあります。今いる場所が本来いる場所ではないような気になることもあります。

今回、この「楽園のつくりかた」という本をお芝居にしようと考えたのは、私が本来やりたかった青少年向け演劇ということで、子どもたちに、おもしろくてそれでいて何か生きていくうえで大事なメッセージがあるものを探した結果です。

それは、もし困難な辛いことにぶつかってしまったとしても、他人のせいにしたたり不幸を嘆いているだけでは何も始まらない。自分の居場所を見つけるにしても、自分の存在価値を確認しようとするにしても、たとえ人とぶつかってしまったとしても、人は人とは

関わらなければいけない訳だし、自分が踏ん張らなければ何も見つからない、言うことです。

このお話の主人公、星野優くんは、中学2年生の夏のある日、突然お母さんからポケ始めたお爺ちゃんと同居する為に田舎へ引っ越すと告げられます。

中学受験を勝ち抜き、中高一貫の私立に合格していた彼は、将来は一流大学から一部上場企業に就職して、プール付きの家に住むという人生設計をたてていました。ところが引っ越していった所はド田舎だし、お爺ちゃんはポケてるし、同級生はバカ丸出しのサル男といつもマスクのネクラ女と、もう一人は？です。

塾も無ければコンビニも無い。とにかく目に映るもの全てがスローテンポで、同級生がみんなバカに見えて、見下した態度で接します。

しかし、彼は偏差値が全てだと言ってはいますが、本当にそれが魅力のある事だと思っではないのでしょうか。そういう価値観でいなければ耐えられない心の痛みを抱えています。先が見えなくて不安で仕方がないし、苦しさを誰にも言えないプライドもある。

バカにしていた同級生たちにもそれぞれ悩みがあり、もがいて生きているのだと解った時、彼の心も変化していきます。

世の中天災も起こるし人災もある。突然肉親を亡くすこともあるし、どのような形で不測の事態がやって来るかもわかりません。そりゃもう不安なことだらけですが、結局は自分から何かにぶつかっていかなくや、という話になればと思っっています。

大変なのは子どもだけじゃなく、むしろ大人になってからの方が人間関係は複雑だし、思い通りにはならないし、それが生活や収入にも影響したりします。

今の時代、あまり頑張れとは言えない状況もあるようですが、おじさんたちも頑張る。少年たちよ、頑張れ。

あ ら す じ

エリート中学生・星野優は、
ある日突然母親から

「お父さんの田舎へ引っ越す」と告げられ
ト田舎の学校に転校することになった・・・

いっぱい勉強して東大に入り、

有名企業に就職するという

将来へのプランがグチャグチャだあ！

塾も無い。おじいちゃんはボケてる。

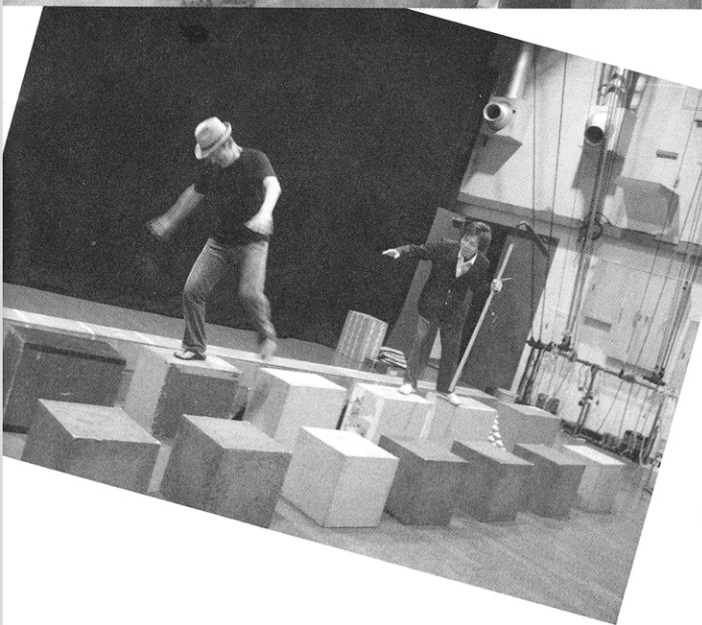
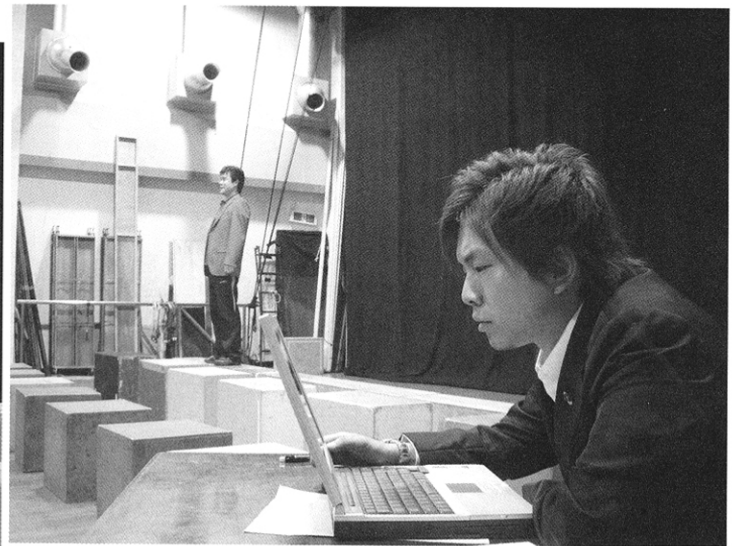
しかも同級生はヘンテコな3人だけ。

バカ丸出しのサル男いつもマスクのネクラ女、
そしてアイドル並みの美少女(?)

こんなところで勉強が遅れたら

僕の将来どうなるの！

嗚呼、ここはたして地獄か楽園か…？





関西芸術座

〒550-0012 大阪市西区立売堀3-8-4
TEL06(6539)1055代表 FAX06(6539)1056

<http://kangei.main.jp/>
